

総会を終えて、本年度の調査研究も次々にスタート

□太田原高昭顧問（北海道大学名誉教授）が「日本農業研究所賞」を受賞



左側から太田原顧問と夫人

*写真は農業協同組合新聞様よりご提供いただきました。

五月一〇日、東京で第二七回「日本農業研究所賞」表彰式がおこなわれ、今年度は太田原顧問、堀江京都大学名誉教授、陽北里大学名誉教授の三氏が受賞されました。

この賞は、(公財)日本農業研究所が「農業に関する学術研究上顕著な貢献をした研究者」を表彰するもので、太田原顧問は「北海

道農業の振興に果たす農協の役割に関する研究」で、受賞されました。この研究では、営農指導と販売事業による産地形成を、北海道における総合農協の中心的な事業活動と位置づけ、それを通して地域農業振興に果たす総合農協の役割と機能を明確に解析しています。

受賞に伴い、太田原顧問は、「農協と北海道農業の分野で仕事をできており、地味だがベシシクな分野に光を当てて頂いたことは、同様の若い研究者の大きな励みになります。特に、農協改革については、さまざまな議論がなされ評価が定まらなところですが、そこに新しい角度から評価が加えられるきっかけになればと念願しています。」と、語っていました。

□平成二八年度第一回理事会

(四月二七日)

前年度事業報告と通常総会開催を決めました。

□平成二八年度通常総会

(五月二六日)

当日出席 三五名、書面出席 一七
四名、合計 二〇九名

総会終了後に特別講演会を実施しました(今月号の特集Iをご覧下さい)。
演題は「魅力ある地域を興す女性たち」J.C総研主席研究員小川理恵先生に講師を、お願いいたしました。

□第二回・第三回理事会

(五月二六日)

第二回理事会では総会への新理事候補(案)と任期満了に伴う新監事候補(案)選任議案の提出を決め、総会後の第三回理事会では互選により常勤理事を選任しました。



□五連テーマ研究班会議

(五月二四日、三〇日)

今年度、連合会から受託した調査研究テーマについて、研究者が同席して調査の取り進めの打ち合わせを行いました。

□自主研究「北海道農業における担い手確保問題と集落機能について」研究班会議(六月三日)

今年度実施する自主研究の研究班会議を開催しました。全道的な後継者・担い手確保の諸類型の抽出や典型事例地域調査などを交えながら、それらと集落機能など地域的・集团的機能との関連性などを検討する予定です。

□今後の予定

①平成二八年度事業計画説明と取組状況の報告会(七月一九日)

併せて講演会を開催します。演題は「生乳共販体制の役割」、講師は清水池先生(北大大学院農学研究院講師)です。

②出版助成選考委員会(七月二二日)

今年度の出版助成対象者を選出します。

③てん菜技術発表会(七月二〇日)

当研究所、鷹田研究部次長が発表します。

